
生と死のあいだに

学無

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生と死のあいだに

【Nコード】

N32470

【作者名】

学無

【あらすじ】

俺の街に「死んだはずの人間が生きていた」といううわさが流れていた。なんでも、本当なら二時間ほど前に死んだ奴が、何食わぬ顔で友達の輪にいたとか何とか……

胡散臭い話だ。俺はタカシの話を単なるネタだと思って気に留めず大学のレポートに追われた。その日は妹の誕生日だったことも忘れていたくらいだった。

そして、徹夜明けの次の日。俺は車に引かれた。ああ、死んだ。と一瞬で理解したほどの引かれっぷり。

けど俺は次の瞬間、暗闇の中一人立ち尽くす少年の前にいた。
そいつは言った。
『汝に半時の猶予を与える』と。

生前

俺の住む街に最近流行り始めた噂がある。

もしかしたら、それは昔からあった話で。たまたま俺が通らなかつた道端には、ぽいすてられたゴミ同然にあふれていたものかもしれない。けれどそこに俺が通りかかり、神様のイタズラ心で知ったのは最近のこと。

何でも、『死んだ人間が生きていた』という。

……は？ って感じ。何言っちゃってんだ、ていうのが初めて小耳に挟んだ時の正直な感想だ。

だってそうだろ？ 死んだやつが生きていただあ……？ そんなの当たり前だろ、人間死ぬまで生きてるんだから。

俺がとぼけるでもなく言ったら、話を持ちかけたタカシは『そういう切り返しはないわ』と食堂に響くほどに噴き出して、すぐにいやらしく口を歪めた。

たれた前髪の影がやけに濃くなって、堀の深さが際立った。暗い瞳が、さも火の玉みたくゆらゆらと光ったようにも見えた。

身を包む涼しげな秋の風が、空気中の水分が張り付くそれに変わるよう。

タカシは潜めた声でこう続けたのだ。

『何でもさあ、二時間も前に死んだはずの連中が、何食わぬ顔でそこにいたんだってよ。そして、音もなく消えるんだ！ この世に未練なんてないって、闇に浮き上がる笑みを浮かべながら』

はっはー。とタカシも次の瞬間には馬鹿らしいと鼻で笑った。つまり、いいネタを仕入れて、見せびらかしたかったというだけだろう。他の連中も、またそんな話かよと呆れていた。

俺自身、何だそれは。と胡散臭く思い、サラダ、スープつきで破格の300円という、学食をかき込んだ。

その翌日、俺はあっさりとそれに巻き込まれるとも知らず。

生前（後書き）

見つけてくれた方ありがとうございます。
また、最後までおついあいしていただけると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3247o/>

生と死のあいだに

2010年10月16日00時10分発行